

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 84 回

『自由にして勇氣ある行動 ～ 人間と人間とのふれあい ～』

2021年11月18日 東京女子大学の第17回評議員会に陪席し、その後 定例理事会（2021年度第7回）に出席した。大変有意義な、貴重な時であった。筆者は、「おわりに」、【女子教育に 大いなる理解を示した新渡戸稲造（1862-1933；東京女子大学 初代学長）が、指導した安井てつ（1870-1945；東京女子大学 第2代学長）の「洗練された自尊心」の人格像、『種を蒔く人になりなさい』の実践。「私は一人の人間に過ぎないが、一人の人間ではある。何もかもできるわけではないが、何かはできる。だから、何もかもはできなくても、できることをできないと拒みはしない』（ヘレン・ケラー）】を語った。「人間の知恵と洞察とともに、自由にして勇氣ある行動」（『南原繁（1889-1974）著の「新渡戸稲造先生」より』）が思い出される今日この頃である。来年2022年「新渡戸稲造生誕160周年記念」シンポジウムが開催される予感がする。

2021年11月19日午後 Zoom『クラッシュジャパン』理事会に出席した。「クラッシュは、Christian（クリスチャン）、Relief（救援）、Assistance（協力）、Support（支援）、Hope（希望）の頭文字【CRASH】からなっています。」と謳われている。「2011年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災の際には、被災地に5つのベースを設置し、2700名を超えるボランティアを動員しました。世界中からのボランティアたちが、清掃作業、物資の配布、建物の復旧作業、被災者への傾聴、作物の栽培、クラフトやアート、コンサート、チラシの配布、モバイルカフェなどに携わりました。」とHPには掲載されている。東日本大震災以後も日本各地でさまざまな災害発生しており、『防災・災害』と『心のケア』と『ボランティアを育てる』は大きな課題であろう？すべての始まりは「人材」である。「行動への意識の根源と原動力」を持ち、「はしるべき行程」と「見据える勇氣」が、『クラッシュジャパン（crash Japan）』の現代的意義であろう！

2021年11月19日夜 Zoom南原繁研究会（第209回）に出席した。自由発表、読書会は大変学びの時となった。今回の箇所は『聞き書 南原繁回顧録』（東

京大学出版会)の「学問と現実」(356～420ページ)であった。「それで講義の間に、先生がおもしろく話するでしょう。それは憶えていますね。それが将来役に立つんだなあ。あとは専門のことは、本をみればいいわけでしょう。ノート以外の、行間の、人間と人間とのふれあいだな。」(389ページ)は、筆者の「教育・授業」における原点である。10年前の『新渡戸稲造生誕150周年記念』の第9回南原繁シンポジウム(2012年)の記録本『南原繁と新渡戸稲造 ～ 私たちが受け継ぐべきもの～』(南原繁研究会編)(画像)が鮮明に蘇る日々である。

